

いわき市内に避難している浪江町民の健康調査支援事業

報告書

第1次 2012年10月～2013年 9月

第2次 2013年10月～2014年 9月

第3次 2014年10月～2015年 9月

I 部 健康調査支援活動の組織と運営

日本赤十字社看護部

日本赤十字看護大学

I 部 健康調査支援活動の組織と運営 目次

序章.....	1
I 健康調査支援事業発足の経緯.....	2
A 日本赤十字社による支援の経緯.....	2
B 浪江町選択の理由.....	2
C 健康支援調査活動の開始にむけて.....	3
D 浪江町の被害と現状および今後の見通し.....	4
II 活動目的と意義.....	5
A 活動目的.....	5
B 活動の意義.....	5
III 健康調査支援事業の組織と運営.....	6
A 組織構造とプロセス.....	6
B 会議システム.....	11
C ロジ支援.....	14
D オリエンテーション研修.....	18
IV 活動内容.....	20
A なみえ保健室の組織化.....	20
B 健康調査支援活動の実際.....	21
C 健康調査支援活動実績.....	23
D サロン活動.....	28
E 研修・実習受け入れ.....	34
V 赤十字病院からの派遣看護師の活動.....	36
A 派遣実態と成果.....	36
B 2012年10月から2013年9月までに赤十字病院から派遣された看護師の活動実態.....	40
C 2012年10月から2013年9月までの派遣後の状況調査の結果.....	43
D 2013年10月から2014年9月までに赤十字病院から派遣された看護師の活動実態.....	49
E 2014年10月から2015年9月までに赤十字病院から派遣された看護師の活動実態.....	55
まとめ.....	62
終わりに.....	63

序章

2011年3月11日に発生した東日本大震災から、2015年3月で4年が経過した。東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染問題が発生した福島県では、地震発生から4年が経過した時点においても、被害地域の復興の見通しはまだ十分には見えていない。このような状況のなか、日本赤十字本社と日本赤十字看護大学は、2012年から福島県浪江町住民を対象とした健康支援活動を発足させ、その活動を継続している。

本報告書は福島県浪江町の住民を対象にした健康調査支援活動をまとめたものである。第一次の支援活動報告は、2012年10月から2013年9月までの活動内容をまとめた。第一次報告に2013年10月から2014年9月までの間に取り組んだ活動内容を加え、第二次報告書として整理した。次に、第二次報告に2014年10月から2015年9月までの間に取り組んだ活動内容を加え、第三次報告書として整理した。活動開始から2015年9月までの活動内容の経緯全体が、本報告書によって理解できるような形をとった。

本報告書の第Ⅰ章には、組織の発足の経緯と変遷が書かれている。続いて、第Ⅱ章では、活動の目的と意義を整理した。第Ⅲ章では、健康調査支援活動を展開するための組織づくりと2015年9月までの変遷プロセスを記した。今回の事業の活動主体は、日本赤十字社本社と日本赤十字看護大学であるが、日本赤十字社福島県支部、福島県赤十字血液センター、福島県いわき市、浪江町等の行政機関など諸機関との連携、協力により成り立った活動である。これらの組織との連携があつてこそ成立した事業であるので、各関係機関との連携の仕方も含めた組織立ち上げのプロセスとその変遷を記述した。

第Ⅳ章では、健康調査支援活動の実態、すなわち電話での予約から訪問、健康調査に至るまでの流れや健康調査の項目などを整理した。また、調査結果をどのような視点から分析し、行政保健師とどのような連携を取って継続的な支援に繋がったか、について記述した。基本的には第1期調査の手順に準じ実施した。2013年からは、健康調査活動に加え、新たに「なみえ保健室」でのサロン運営を実施したので、この活動報告を付加した。さらに災害看護学のCNS(専門看護師)育成コースやDNGLコース(災害看護グローバルリーダー)の実習受け入れ活動の実績も付加した。

今回の健康調査支援活動は、日本赤十字社本社及び日本赤十字看護大学のスタッフに加え、全国の赤十字病院から派遣された看護師の活動により支えられている。第Ⅴ章では、派遣された看護師の活動状況等をまとめた。

今回の報告書が、災害時の赤十字の中長期支援の活動の在り方、そこでの看護職の活動を検討するための基礎資料として役立つことを願っている。